

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101528		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム 中川のより道		
所在地	長崎県長崎市中川1丁目7番14号		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年3月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常的に自治会や地域住民との関わりがあり、顔なじみの関係を築くことができている。毎月のカンファレンスにてご利用者様一人ひとりに焦点を当て、日々変わっていく身体状況や認知症状に合わせたケアの方法について職員全員が意見交換を行いチームとして問題解決に努めている。ICTの活用に積極的に取り組み、様式の変更など業務効率化を行い、他事業所や、薬局、医師との連携にも活用している。コロナ禍におけるご家族とのやり取りについて、タブレット等による日常のご様子やイベント時の写真の送付などこまめな連絡に役立っている。また、月ごとのご様子を文書にして送付することで「とても分かりやすい」「笑顔が増えたようで安心している」と大変好評いただいている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは利用者の個別ケアに力を入れ、一人ひとりに寄り添い、介護プランを提供している。起床・就寝時間は自由で、自宅で過ごしているようにゆったりと過ごせるよう職員が支援している。近隣住民から古布や花の差し入れがあり、町内の一員として根付いていることが窺える。浴室にリフト浴を導入し、終末期の利用者を含め、全員が入浴できると同時に安全性も確保していることは特筆すべきである。看取り支援には積極的に取り組み、利用者や家族の意思を最大限に尊重し、最期を迎えることができるよう努めている。運営面ではICTを活用しており、各種データをタブレットに入力して、ペーパーレス及びデータの共有化を実現している。計画作成担当者は法人全体の職員育成の任も担っており、職員との面談し、目標について助言を行っており、人を育てる仕組みが確立していることも特長である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「大家族をつくろう」のテーマに自立支援を常に優先しながら日々のケアを実践している。具体的なサービス計画の検討の際にも理念に基づいて話し合っている。	理念にある家族像は、利用者とその家族に留まらず、職員や近隣住民まで含んだものである。毎年4月に理事長から理念について講話があった後、各事業所で具現化しているかどうか振り返っている。新人職員には配属先で理念に関する説明を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には日頃より新聞紙や古着、花などを頂いたり、利用者様の健康状態を気に掛けた挨拶をして下さる。運営推進会議についても書面にて参加して頂いている。	近隣の保育所をはじめ地域との交流を盛んに行っている。新型コロナ禍でも保育園児が作成した節分のお面を受け取ったり、地域の夏祭りや市民大清掃に参加している。町内会に加入しており、近隣住民とは、花や古布の提供を受けたり、互いに挨拶を交わす関係である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、書面にてケアの工夫や取り組みを報告している。見学者や外来者にも相談に乗ったりと支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット・事故の内容を具体的な報告や、個別支援、ご家族の要望、希望を報告しており、意見をケアへ活かした取り組みを報告している。昨年より書式を変更し参加者からの意見の抽出に努めている。	新型コロナ禍で書面決議を継続し、家族全員に議事録を送付している。昨年の外部評価の気づきを受けて、議事録報告時に質疑応答と返信欄を設けている。行政から、利用者の日頃の様子がわかる写真が欲しいとの希望があり、応えている。ホームでは、更に意見が出るよう検討を重ねている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への市職員の参加や、書面、広報誌を通して活動を報告している。	行政とは日頃から、運営他に関する質問等は、メールを活用している。ヒヤリハットは運営推進会議の議事録で報告しており、事故報告の際は市役所へ出向いている。今年度は、新型コロナ禍についてマスクや消毒液についての質問や要望が多くなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会の開催、内部研修にも参加している。利用者様の行動を抑制することなく対応に努めている。積極的に外部研修へ参加し、身体拘束をしないケアへの理解を深めている。	身体拘束に関する研修は、本部で年1回、ホームで年2回行っている。長崎県主催の権利擁護に関する研修にも全員が参加している。身体拘束廃止委員会を職員会議時に実施しており、チェックリストを用いて振り返り、不適切なケアや言葉遣いについての確認に注力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待防止委員会の開催、内部研修への参加、職員の意識の向上に努めている。また、日々のケアが虐待に繋がらないように注意し、メンタルケアにも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、日常生活自立支援事業や青年後見人制度について、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、利用者様とご家族様に詳しく説明し、疑問や不安が残らないようにし、同意を得ている。解約、改定の際も同様に対応し、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族に対し、健康状態等について報告し、遠方のご家族にもメール等にて意見や要望をもらっている。苦情解決実施に向け、第三者委員の会議への参加も得るようにし、機会を設けている。	毎月利用者の体調や日々の様子、内服薬等について書面で家族へ知らせている。新型コロナ禍で、面会を制限している期間にはLINEやメールで連絡を取り合っている。日中居室で過ごしたいという利用者の申し出を尊重し、時には食事を運び入れている。CDを聴いたり、テレビを見たりして自由に過ごしていることが確認できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は利用者様の様子や介助方法について、会議などで積極的に発言しており、一人ひとりが、より良い介護について考える、といった風土が構築されている。	日頃から設備等で不便な箇所は、施設長を通じて本部へ伝え迅速な解決に努めている。理事長他幹部職員で行う責任者会議では、運営面や職員の処遇等について話し合いを行い、職員は、議事録で内容を確認することができる。計画作成担当者は法人全体の職員育成の任も担っており、職員の面談を実施し、助言を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休假日の希望はほぼ叶えられており、有給も定期的に消化している。各自のレベルに応じた研修や学習への参加、資格取得を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに年2回目標を決め、毎月の法人内研修、必要に応じた外部研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会議を通して、同業者との情報交換や交流による知識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族の話から生活歴、嗜好などの情報を収集、整理し、職員全員で共有、会話の糸口としている。また、他利用者様との仲を取り持つ工夫もしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に利用者様を深く観察し、ご家族と密に連携を取ることで、課題を早急に明確にし、解決できるよう支援することでより早く信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームのかかりつけ医の紹介や、今までの医師を変更する必要はない事を説明している。身体状況に応じた福祉用具の提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの役割を見出だす工夫をしており、日々、洗濯物たたみや裁縫、洗い物などの協力をして頂いている。職員が利用者様に教えてもらう場面も多々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策として、面会等は制限を設けている現状。施設管理のタブレットによる写真や動画の送付、テレビ電話等出来るよう整備している。オンライン上のやりとりが困難な方に対しても、手紙や写真の送付など対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策として、面会等は制限を設けている現状。感染者数の減少していた時期には友人や知人の来訪もあり、制限中の際も窓越しで顔を見たりできるような工夫を行っている。	新型コロナ禍での面会制限期間は、窓越しでの面会を実施している。制限を緩和した時期には、誕生会に家族を招いている。母の日には、プレゼントが届いたり、家族から手紙が届く利用者もいる。プランターにトマトを植え皆で水やりしたり、裁縫をする利用者もいて、入居前の生活を継続することを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話ししやすい様、隣同士に座って頂く配慮や、難聴の方には職員が間に入り、会話が円滑になるようにフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退所になられた際には、必要に応じて、ご家族との相談や、法人内の事業所を紹介するなど支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様との会話などからニーズの把握に努め、会話が困難な方に対しても、以前の情報や、ADL、IADLから本人本位に検討している。	起床、就寝の時間や食事の時間は自由である。居室で食事を取りたいという要望にも応えている他、夜間、空腹を訴える利用者におにぎりを作る場合もある。入浴時間の希望にも可能な限り応えている。帰宅願望のある利用者には、LINEや電話で家族と繋ぎ、落ち着きを取り戻すよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話などから生活歴等の情報を収集し、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なかかりつけ医の往診や、個別のADLや持病、認知症の程度や内容を元に、ご本人様の生活リズムを細かく記録することで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のカンファレンスや職員会議にてケアについて検討するとともに、ご本人様やご家族との面談を行い、介護計画に活かし、月1回は振り返るようにしている。	毎月ケアカンファレンスを行い、モニタリング結果を書面にまとめ、計画の見直しの際に活かしている。新型コロナ禍で家族の来訪が困難ではあるが、計画作成担当者は、LINEや電話、メールを活用して家族の希望を聞き出し、家族の信頼を得ようと努めている。現在ICT化を進めており、介護記録の効率化と共有化を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や発言、具体的な介護と反応がわかるように支援経過記録へ記載し、情報を共有している。毎月の職員会議にて、個々の利用者様の介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望のあった際に外泊を行ったり、誕生日やクリスマスなど、イベント時の写真をご家族様に送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民から古新聞や布切れの提供があったり、施設外でも見かけたら挨拶があったりと顔なじみの関係でいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を選んでもらうようにしている。かかりつけ医とご家族様が面談できるようにし、ご家族様の都合が悪い際には、受診時や電話で相談できるように支援している。	かかりつけ医は本人と家族の希望で継続可能となっている。介護度が高い利用者に対しては、夜間対応も可能な協力医への変更を家族へ提案し、移行する場合がある。ホームの協力医療機関の訪問診療も行っている。結果及び薬の情報は、手紙にて家族に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う様子を発見した場合、速やかに看護師に報告し、かかりつけ医に相談するシステムが出来ている。異常を早期発見することで利用者様の入院が少ない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際から、医師や看護師などと連携を取り、入院中の状態や症状の経過を尋ねたり、連絡も来ている。退院許可が出たらご家族様と相談の上、早く退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様に終末期のあり方の希望を聞いている。また、医療処置等についての意思を記載した看取りについての事前確認書を作成している。	緊急時には、管理者又は看護師がすぐに駆けつける体制を築いており、利用者、家族、職員の安心感に繋がっている。看取りについての事前確認書を作成し、家族への説明を行っている。家族の気持ちは揺れ動くものと認識しており、自然に任せるか医療を取り入れるか等、希望が変化した際には柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修や勉強会にて知識や技術の向上に努めている。消防署主催の救急法にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理者の指導の下、毎月の消防訓練時に防火管理の向上、災害時の対応を訓練している。 自然災害時対応マニュアルを元に施設周辺のハザードマップや避難方法についても職員に周知している。	毎月職員による避難訓練を実施し、利用者も参加する訓練は年2回行っている。避難確保計画は、作成済みである。川の増水時に備え、他施設への避難だけでなく垂直避難も検討している。ただし、非常用持出袋を各居室に備えているものの、すぐに持ち出せる状態でないケースもある。また、新型コロナ禍で近隣住民参加の訓練がない。	非常用持出袋は、非常時にすぐ取り出せるような場所へ保管するよう検討することが望まれる。また新型コロナ禍の収束時には近隣住民が参加した避難訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不特定多数いる所では特にトイレ介助や失敗時など羞恥心に細心の注意を払っている。 写真の掲載など取り扱いに関する確認、同意書を作成し署名を得ている。	運営推進会議等に掲載する写真については、書面で家族の同意を得ている。利用者の呼び方は、苗字にさん付けを原則とし、本人が名前で呼ばれることを希望した場合は、家族の許可を得ている。ポータブルトイレは夜間のみ使用しており、昼間は居室内には置かず、利用者の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気がけて言葉かけを行い、思いや希望を表情や様子から把握するようにしている。1対1でゆっくり話す機会を持ち、ご利用者様の声に耳を傾けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の全てにおいて利用者様のペースやリズムで過ごして頂く事が優先と考えている。また、希望も適宜聞いていき、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、整髪のががけと、季節に合った身だしなみや、化粧やマニキュアを塗ったりと対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器選びや盛り付けで料理の見た目も工夫している。また、食欲や体調に応じ、おかゆやムース食など代替え対応やトロミ付けなどを行っている。ご利用者様には食前のテーブル拭きや食器の後片付けを率先して行ったださる方もいる。	食事は、配食サービスを利用しており、ムース食、とろみ食にも対応している。食前には、嚥下をスムーズにするため、口の周辺のマッサージを行っている。正月にはお節、誕生日にはケーキで祝っている他、家族から刺身が届くこともある。ただし、メニューの検討は、利用者に直接聞いたり、残食を見て判断しており、検食等は行っていない。	利用者にとって、食事は一日の暮らしの中でも重要な楽しみの一つである。職員も同じ物を食べることにより、要望を業者に迅速に伝え、メニューの改善に反映することができると思われる。検食等の方法を検討することに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分量を毎日記録している。摂取水分量の少ない方には、形態や味を変更して提供するなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下、口腔内の状況に応じて、ブラシ、歯間ブラシ、スポンジブラシ、口腔テッシュを活用した口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、パットを使用している方や尿意の希薄な方もトイレで排泄できるよう排泄リズムの把握と誘導の工夫を行っている。定期的な誘導以外にも、訴え時や様子を見てお連れしている。	ポータブルトイレの使用は夜間のみとし、日中はトイレでの排泄を基本としている。利用者は、布パンツ、おむつとさまざまであり、職員が支援している。介護ソフトに排泄の状況を入力し、職員間で共有しており、ケア会議でパッドの大きさを検討している。管理者は、誘導の際の声掛けは、利用者の羞恥心に配慮するよう職員に指導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶やコーヒー、乳酸菌飲料、果物を適宜提供することで十分な水分摂取を促し、食前のテレビ体操を行い、参加を働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴を目安に声掛けを行っており、その他本人様希望時にも可能な限り対応している。浴槽を跨ぐのが困難な方にもゆっくり浸かっただけのようリフト浴を整備している。	週に2、3回の割合で入浴を支援している。同性介助や午前・午後の時間帯の希望にも添っている。リフト浴により介護度が高い利用者であっても、浴槽に入ることができていることは、特筆すべきである。入浴後は保湿剤にて利用者の肌のケアを行っている他、季節によりゆず湯や菖蒲湯の楽しみも大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は設けておらず、本人様の希望で対応している。眠れない方には職員と共にお話をして過ごしたり、温かい飲み物でリラックスして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に与薬できるように一包化や粉末化などの工夫や、医師の指示のもと、看護師が下剤の調整を行っている。薬の準備から服薬まで複数人でのチェックを決めており、誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗い物や、洗濯物干し、たたみ、縫物など家事の役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や興味に応じた個別の外出支援を検討している。外出の難しいなかで、風船バレーや折り紙、かるたなどの室内レクリエーションの充実を図っている。	新型コロナ禍前は、利用者とコンサートに出掛ける等、外出支援を積極的に行っていた。新型コロナ禍の感染状況が落ち着いた時期には、近所の桜の名所に出掛けたり、初詣に行っている。近隣住民から届いた桜の花をリビングに飾ったり、YouTubeの動画を流し、利用者の気分転換を図るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金をご本人様が管理される方はいらっしゃらないが、外出支援時に事前にご家族様に伝え、必要な分を持たせて頂いている。その際の支払いはご本人様でしていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人からの手紙や写真は居室に見やすい位置に掲示している。また施設管理のタブレットを活用し、テレビ電話を行えるよう整備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や植物を飾ったりしている。また、エアコンや加湿器等による空調管理にも配慮している。	リビングには利用者が寛げるようソファを備え付けている。観葉植物や絵画により癒される空間である。加湿機を備え付け、健康面に配慮している。リビングのテレビでは嚙下体操の他、利用者が楽しく体を動かすようビデオを随時放映している。トイレや浴室は臭気も無く、清潔を保っている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一応の席や居場所を決めているが、その時の状況や、利用者様同士の語らいの為、席を変えたり、ソファで過ごして頂くなど柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご家庭で使用されていた馴染みのある家具や小物などを自由に持ち込んで頂いている。また、定期的なシーツ交換や清掃により清潔の保持に努めている。	居室には、ベッド以外は家具等を自由に持ち込むことができる。暖かい絨毯を敷いたり、利用者の好みで書斎のように設えたりと個性豊かな居室である。多くの利用者がCDラジカセやテレビを所有し、日中も居室で思い思いに過ごしている。また、介護度の高い利用者の居室にはリフトを備え、移動がスムーズにできるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様個々のADLを把握し、ご利用者様の使いやすい物の配置や、適切な福祉用具の導入・調整などの工夫を行っている。		